

Market Flash

RWCに見た日本の素晴らしさ！

2019.11



日本アルプス電子株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.

Market Flash

日本のおもてなし



ありがとう日本 — ワールドカップが特別な大会に

1次リーグA組:

第1戦 ロシアに30-10で勝利(東京)

第2戦 アイルランドに19-12で勝利(静岡)

第3戦 サモアに38-19で勝利(豊田)

第4戦 スコットランドに28-21で勝利(横浜)

準々決勝 南アフリカに3-26で敗れる(東京)



ジョセフHCの下で新たな高みに到達した「ブレイブ・ブロッサムズ」が世界中のファンを虜に

アジアで初めて開かれたラグビーワールドカップで1試合ごとに確実に歩を進め、歴史的な結果を残した日本。1次リーグA組を4戦全勝で堂々と首位で通過し、史上初のベスト8入りを果たした。選手やスタッフが呪文のように唱えた準々決勝進出という目標を達成し、世界ランキングも8位まで上昇。開催国として日本のみならず、アジア全体が胸を張ることのできる成績を挙げ、その献身的かつ創造性にあふれるプレーは国内はもちろん、世界中に多くの新たなファンを生んだ。

4強入りを懸けた20日の南アフリカ戦に敗れ、今大会唯一の黒星を喫したものの、この準々決勝戦前の世界ランキングは過去最高となる6位にまで上り詰めた(大会開幕時は10位)。今大会の結果により、フランスで2023年に開かれる次回のW杯出場権も獲得した。南ア戦後に主将のリーチマイケルを祝福したCTBダミアン・デアレンデのように、日本は今大会を通じ尊敬に値するパフォーマンスを見せた。

ヘッドコーチ

成功の立役者となったのがニュージーランド出身のジェイミー・ジョセフ・ヘッドコーチ(HC)。海外では「ブレイブ・ブロッサムズ(桜の戦士)」との愛称で知られる日本チームの指揮を3年間執る傍ら、スーパーラグビーに日本から初めて参入したサンウルブズでも1年間HCを兼任し、チームの強化を進めた。同国出身のトニー・ブラウン・アタックコーチをはじめとする優秀なコーチ陣を的確に配置し、フィットネス、タックル、スクラム、攻撃時の発想からメンタル面の準備まで、このチームをあらゆる面からテコ入れした。「ワンチーム」をスローガンに、今年だけで240日の合宿をともにするなどチームの融和と信頼醸成を図った。

ロシアとの開幕戦後、精彩を欠いた絶対的支柱の主将リーチマイケルを「まずプレーのところをしっかりとしないといけないので、のしかかる責任を軽減」するため控えに回す大胆な采配も振るった。アイルランドとの第2戦で前半途中から投入され、鬼気迫るプレーを見せたリーチの反応、そして以降3試合のリーチの活躍を見れば、この決断が吉と出たことは明白だった。

5試合フル出場を果たしたのはロックのジェームス・ムーア、フランカーのピーター・ラブスカフニ(HIA=頭部外傷のチェック=の時間を除く)、CTBの中村亮土とラファエレティモシー、チーム最多の5トライを挙げたWTB松島幸太郎の5人。31人中5人はベンチ入りすら果たせなかったが、緻密な対戦相手分析に欠かせない存在として躍進を支えた。一方、この起用法や選手層の薄さが、南アフリカ戦での最終的なガス欠につながった可能性はある。



日本のおもてなし

◆観客動員数およびチケット販売

今大会期間を通じての観客動員数は延べ170万4,443人、1試合の平均観客数は37,877人となりました(ともに中止となったプール戦3試合を除く)。

プール戦での最多観客動員は横浜国際総合競技場で行われた日本対スコットランド戦の67,666人、決勝トーナメントでの最多観客動員は決勝のイングランド対南アフリカ戦の70,103人で、これは同会場の歴代最多動員数を記録した。

チケットの販売数については、最終的に約185.3万枚を販売可能席とし、約184万枚(販売率は約99.3%:中止の3試合を含む)となった。

これらの実績は、ラグビーワールドカップ2019日本大会が、日本国内はもとより、世界中から高い関心と注目を集めたことを示している。

《観客動員数上位10試合》

順位	日付	会場	対戦	観客動員数
1	11月2日(土)	横浜国際総合競技場	イングランド v 南アフリカ	70,103人
2	10月26日(土)	横浜国際総合競技場	イングランド v ニュージーランド	68,843人
3	10月27日(日)	横浜国際総合競技場	ウェールズ v 南アフリカ	67,750人
4	10月13日(日)	横浜国際総合競技場	日本 v スコットランド	67,666人
5	9月22日(日)	横浜国際総合競技場	アイルランド v スコットランド	63,731人
6	9月21日(土)	横浜国際総合競技場	ニュージーランド v 南アフリカ	63,649人
7	11月1日(金)	東京スタジアム	ニュージーランド v ウェールズ	48,842人
8	10月20日(日)	東京スタジアム	日本 v 南アフリカ	48,831人
9	10月19日(土)	東京スタジアム	ニュージーランド v アイルランド	48,656人
10	10月6日(日)	東京スタジアム	ニュージーランド v ナミビア	48,354人

<日本の試合の視聴率>

▼9月20日(日本テレビ) ロシア戦で18・3%、瞬間最高視聴率は25・5%を記録。

▼9月28日(NHK) アイルランド戦が22・5%、瞬間最高視聴率は28・9%。

▼10月5日(日本テレビ) サモア戦は32・8%、瞬間最高視聴率は46・1%だった。

▼10月13日(日本テレビ) スコットランド戦で39・2%を記録。瞬間最高視聴率は53・7%と驚異的な数字を記録。

▼10月20日(NHK) 南アフリカ戦は41・6%、瞬間最高は49・1%。

Market Flash

日本のおもてなし



◆ワールドラグビー ビル・ボームント会長コメント

ラグビーワールドカップ2019は、最高の大会の1つであり、私たちが愛するラグビーに新たな観客をもたらしたという点で非常に画期的でした。

全世界のラグビーファンを代表して、このような素晴らしく、謙虚で、歴史的なホスト国であった日本と日本人に、心の底から感謝したいと思います。

南アフリカ代表は傑出したラグビーを続け、ウェブ・エリス・カップを掲げるに相応しいチームでした。そして、日本代表の驚くべきパフォーマンスも、間違いなく大会の最も記憶に残る瞬間でした。

台風ハギビスという非常に困難な災害に対する日本の対応は、この素晴らしい国の人々の回復力と復興への決意の表れであると感じます。我々は、この悲劇的な出来事の影響を受けた全ての人々について思い続けています。

最後に、ラグビーワールドカップ2019が記憶に残る大会であるために全力を尽くした全20チームと関係者の皆様に感謝したいと思います。日本大会は様々な意味で記録を破り、ラグビーの印象を劇的に変えたのです。

#RWC2019 プールA					#RWC2019 プールB					#RWC2019 プールC					#RWC2019 プールD				
チーム	PL	+/-	BP	勝ち点	チーム	PL	+/-	BP	勝ち点	チーム	PL	+/-	BP	勝ち点	チーム	PL	+/-	BP	勝ち点
日本	4	+53	3	19	ニューゼーランド	3	+135	2	16	イングランド	3	+99	3	17	ウェールズ	4	+67	3	19
アイルランド	4	+94	4	16	南アフリカ	4	+149	3	15	フランス	3	+28	1	15	オーストラリア	4	+68	4	16
スコットランド	4	+64	3	11	イタリア	3	+20	2	12	アルゼンチン	4	+15	3	11	フィジー	4	+2	3	7
サモア	4	-70	1	5	ナミビア	3	-141	0	2	トンガ	4	-38	2	6	ジョージア	4	-57	1	5
ロシア	4	-141	0	0	カナダ	3	-163	0	2	アメリカ	4	-104	0	0	ウルグアイ	4	-80	0	4



Market Flash

日本のおもてなし



<いい話>

「今すぐ東京スタジアムに走れ！」南ア戦直前、アイルランドサポーターからもらった一生もののプレゼント

ラグビー日本代表のラストマッチ、南アフリカ戦を、アイルランドへの感謝の気持ちを胸に見つめていたのが、東京都杉並区在住の藤井裕士さん(52=会社役員)だ。上智大学時代はラグビー部に所属していたという藤井さんは20日午後3時45分頃、六本木にあるブリティッシュパブに足を運び、準々決勝のウェールズ—フランス戦をテレビ観戦した。

拮抗した試合がハーフタイムを迎えると、近くにいた8人くらいのアイルランドサポーターのうちの1人の男性から「この後の日本戦も観るのかい？」と話しかけられた。「もちろん観るよ！」と即答すると、そのアイルランド人男性は「今日の日本戦のチケットをあげるから、今すぐ東京スタジアムに行け！」と、日本—南ア戦の観戦チケットをプレゼントしてくれたそうだ。

男性はさらに「今日の試合は、僕たちではなく君が観るべきだ。僕たちはここで日本を応援しているから！」と勢いよく声をかけてきた。あまりに突然の展開に藤井さんがキョトンとしていると、側にいたフランス、ウェールズのサポーターの面々も加わり、「お前のビールは俺たちが飲んでおくから、早くここを出て行け！スタジアムに走れ！」と藤井さんの背中を押すように声を張り上げた。

藤井さんはその場で号泣。メールアドレスを交換し、彼らとハグをして感謝の気持ちを伝えた。そして、後半開始と同時に店を出て、味の素スタジアムに泣きながら向かった。惜しくも試合は日本の負けとなったが、日本代表の奮闘に打ち震え、再び大粒の涙を流した。藤井さんは「試合は残念だったけど、心から感動しました。あのアイルランドの人には感謝しかない。本当に幸せな気持ちになりました」と感激しきりだった。今大会中、あちこちで見受けられたサポーター同士の心温まる交流。ノーサイドの精神は、ファンの間でも浸透している。

アジア初のW杯は比類ない大会に

各国の選手、スタッフが驚く日本の活躍と歓待

- ◆ W杯日本大会2日目の9月21日、1次リーグC組でアルゼンチンを23-21で振り切ったフランスのWTBヨアン・ユジェは、終了の笛と同時に東京スタジアムのピッチにひざまずき、勝利の余韻に浸ったとき、特別な感じがした。「観衆が歓呼している。ラグビーが祭りのように盛り上がっていて、これには驚いた」
- ◆ 東大阪市の花園ラグビー場で試合をしたイタリアのコナー・オシェイ監督は「来てくれてありがとう、というムードを感じる。街でもホテルでも、人々が何でもやってくれ、こんなW杯やファンは信じられない」と驚く。豊田市の豊田スタジアムで、南アフリカとナミビアの選手が試合終了後に整列しておじぎをしたのを例に挙げ、「選手たちが試合終了と同時に、観衆の方に向かう光景には心が和む」という。
- ◆ ニュージーランドのスティーブ・ハンセン監督は、日本がアイルランドに勝ったことだけでなく、その後の観衆にも驚いたという。「終了後30分たっても帰らず、勝利を祝い続けるなんてすごい」。日本の前ヘッドコーチでイングランド監督のエディー・ジョーンズ氏は、札幌市でのトンガ戦勝利後、地元民をほめちぎった。「この歴史的なW杯は特別な感じがするし、日本には本当に感謝している」
- ◆ ワールドラグビーのビル・ボームント会長は開幕に当たって声明を発表し「日本が南アフリカを破った(前回イングランド大会の)快挙の6年も前に、W杯の日本開催を決めたことは大胆な決定だった」と認める一方、今大会は「日本だけでなく、最も人口が多く、若いアジア地域のラグビーの将来性を示すものとなったのは明らか」とたたえた。
- ◆ キャンプ地で、地元との交流は試合が始まってからも続く。例えば、長崎県島原市をベースにしているトンガは、イングランドとアルゼンチンに連敗した後だが、子供たちにラグビーをコーチしたりしている。



Market Flash

2019.11



日本のおもてなし

ラグビーワールドカップ2019日本大会 出場20チーム国歌の歌詞カード「国歌で世界をおもてなし」

元日本代表キャプテンの廣瀬俊朗を中心に、日本のおもてなしを表現する方法として、**各国の国歌をHP上で紹介。カタカナ表記を掲載し、誰もが他国を讃え国歌を歌おうと呼びかけた。**HP上では、

「ラグビーワールドカップならではの高揚感を国歌・ラグビーアンセムで作り出すために、歌詞カードを本ページにてご提供しております。スマートフォンに保存、用紙に印刷などの方法でぜひご活用ください。

国歌で世界をおもてなし。みんなで肩を組み歌うことで心が通じます。歌は無限の可能性を秘めています。

しかし自分が住んでいる国や地域を代表するチームの国歌・ラグビーアンセム以外を知る機会はありません、歌詞を知る機会ももっと少ないです。

ラグビーワールドカップ2019日本大会を通じて、まず歌詞を知ってみましょう。そして試合当日は試合会場の全員で肩を組んで大合唱をしましょう。」

と呼びかけ、**実際に会場内外で日本人が他国の国歌を歌っている姿が全世界のマスコミが取り上げ絶賛された。**

これも日本独特のおもてなしである。

■ National Anthem of South Africa / 南アフリカの国歌 ■

Word: Enoch Sontonga and C.J. Langenhoven

Music: Enoch Sontonga and Reverend M.L. de Villiers

Nkosi Sikelel' iAfrika
Maluphakanyisw' uphondo lwayo,
Yizwa imithandazo yethu,
Nkosi sikelela, thina lusapho lwayo
Morena boloka setjhaba sa heso,
O fedise dintwa le matshwenyeho,
O se boloke, O se boloke setjhaba sa heso,
Setjhaba sa South Afrika - South Afrika.
Uit die blou van onse hemel,
Uit die diepte van ons see,
Oor ons ewige gebergtes,
Waar die kranse antwoord gee,
Sounds the call to come together,
And united we shall stand,
Let us live and strive for freedom,
In South Africa our land.

■ National Anthem of South Africa / 南アフリカの国歌 ■

～カタカナふりがな～

ンコスイ スイケレリ アフリカ
マルパカニースア ポンド ロワヨ
イエズワ イミタンダーゾ イェトウ
ンコスイ スイケレラ ティナ ルサポ ロワヨ
モレナ ボロカ セチャバ サ ヘソ
ウ フェディゼ ディンチュワ レ マチュエイエーホ
オ セ ボロケ オ セ ボロケ セチャバ サ ヘソ
セチャバ サ サウス アフリカ サウス アフリカ
アイ ディ ブロウ ファン オンサ ヒーメル
アイ ディ ディプタ ファン オンス スィアー
ウァール オンス イアヴァハ ハベルタス
ヴォール ディ クロンサ アントヴァールド ヒア
サウンズ ザ コール トゥー カム トウギャザー
アンド ユナイテッド ウィー シャル スタンド
レット アス リヴ アンド ストライヴ フォー フリーダム
イン サウス アフリカ アワー ランド



日本のおもてなし

「The Guardian」のAndy Bull記者が書いた、日本対スコットランドの記事「[Japan show world their defiance and skill in face of typhoon destruction](#)」がソーシャルメディアなどで話題となった。台風19号による被害で死者・行方不明者が増え続ける中でラグビーをする意味、試合実施に向けて全力を尽くした関係者などに触れながら、あの素晴らしい試合がどのように成立したかを書いている。

Andy Bull記者は、単にラグビーの試合を記事にするだけでなく、社会的な背景にも迫っている。記事において日本の「おもてなし」という言葉は翻訳が難しいが、ゲストを喜ばせるために最大の力を尽くすことであると理解したと記している。

黙祷は、1分にも満たない、短いものだった。しかしそこには、過去に例を見ない状況で開催される、この試合に対する、相反する感情の渦巻き、衝突が含まれていた。台風がつい数時間前に過ぎ去り、スタジアムの周りは洪水であふれ、救出作業も終わっていなければ、修復作業など始まってすらいない。

その黙祷が、一体誰に向かって、何人の犠牲者へ捧げられたのかは、誰も知る由はなかった。被害者の数は、未だに確定していなかったのだから。明け方は4名とされていた死傷者数は9名へ、試合開始時には24名に、ハーフタイムに26名、試合が終わり少し経つ頃には28名へと増えていった。

そんな状況で、彼らは試合を開催するべきだったか。あなたは疑問に思っただろう。ラグビー協会はそのことを日曜早朝に話し合い、日本人の組織委員に判断を委ねることを決定した。[なぜこんな状況でスポーツをするのか。なぜスポーツを見るのか。](#)

未だに多くの人が行方不明で、堤防は壊れ、川は溢れ、会場の横浜から東へ16マイルしか離れていない川崎では100万人が避難し、30マイル北に位置する相模原では、土砂災害でなくなった人の、正確な数さえ把握できていない状況で。

災害への一種の清涼剤としてかも、もしかすると、日常を取り戻すためかも、台風に対する挑戦かもしれない。いや、それ以上、「[私たちは今生きていて、少なくとも今ここにあるものは楽しむことを決意した](#)」と言う極めて重要な意思表示の1つとしてかもしれない。彼らは試合の開催を決めた。

ホスト国としてのプライドもあっただろうが、会議に出席した委員会幹部は、「[世界に向けて、自分たちはできると言うことを証明したい](#)」というのが、開催を決定した最たる理由だと、繰り返し主張した。

この会場の被害が甚大でなかった理由の一つは、鶴見川から溢れ出す水を、建物の下へと流す貯水設備の上にスタジアムが建っているからだった。スタジアム自体が街の災害対策設備の支柱なのだ。そしてこの試合で、日産スタジアムは、街の『精神的』支柱にもなった。

組織委員たちは、台風が去ったら一刻も早く動き出せるよう、土曜の夜はスタジアムに泊まり込んだ。明け方には整備班が現地入りし更衣室から水を吸い出し、消防隊は全ての機械設備の点検を3度行い、ピッチに流れ込んだ泥やゴミをホースで一扫した。

同時に、組織委員会は政府や地方自治体と協力し、水道局、道路局、バス会社や鉄道会社などの各種交通機関と連絡を取り、複雑な課題を解決していった。



Market Flash

2019.11



日本のおもてなし

日本では、このワールドカップにおける『おもてなし』とは何か、と言う議論が活発になされてきた。私も正確に翻訳することはできないが、この国で4週間を過ごして、漠然とだが理解したかもしれない。それは、客人を喜ばせるために全力を、いや、何かそれ以上を尽くすということだ。

しかし、彼らの『おもてなし』は、私たちの予想をはるかに上回っていた。試合前、多くの人が全くの勘違いをしていたのは、そのせいかもしれない。

「日本人はみんな、この試合が中止になり、過去に勝利したことのないスコットランドとポイントを分け合うことを望んでいる」という勘違いを。中には、「日本は故意にスコットランドの妨害をしている」と言う、壮大な陰謀論を唱える者までいた。

スコットランドラグビー協会の最高責任者、マーク・ドッドソンも、完全な勘違いをしていた。怒りに任せて、『巻き添え被害』(ポイントを分け合うこと)に合えば法的措置を検討しているなどと口を滑らせた。これは、日本人たちがどう覚悟を決めたかのプロセスに対する、恥ずべきミスリーディングだ。

黙祷に続いて、日本の国歌、君が代が流れた。日本人はこの国歌に複雑な思いを抱いており、歌わない人もいる。そのため大会中、ファンたちに国歌斉唱を促すキャンペーンが開かれている。この日、会場の多くの人に参加した国歌斉唱は、感動的で、荘厳だった。

選手を鼓舞する歌声が、大きく大きく、街中に響き渡るほど広がっていった。あの瞬間、あなたは思い知っただろう、スコットランドが対面しているのは、ラグビー文化を持たない極東の島国ではなく、強大なサポーターを持つ、己の真価を世界に証明しようと言う覚悟の決まったチームだということ。

前半の30分間、日本は魔法のような、激しく、獰猛で、集中したラグビーを見せた。次に対戦する南アフリカも含め、トーナメントに残った、全てのチームを凌駕するほどの。スコットランドも善戦したが、より頑強で、より鋭く、より俊敏であった日本に、完全に圧倒された。

日本のラグビーファンたちは、今なら何だってできる、どこが相手だって倒せると信じているだろう。そして、日曜日の夜に彼らが偉業を成し遂げた今、日本人だけではなく世界中の誰しもが、同じように思っている。

この記事に今大会の全てが言い表されている。

日本の「おもてなし」は世界にない独特のもの、日本文化そのものだ。

外国人も加わった日本代表は、「One Team」を掲げ、日本人として日本の文化を深く理解して、すべてを犠牲にして日本代表として戦ってくれた。

そこには、人種なども、差別などもない。その心に日本人は感動し続けたのであろう。

大会が終わった今、「ありがとう」という言葉がそれを物語っている。

* スコットランド協会の問題発言に対して制裁金が課せられ、最終的にはスコットランド協会も非を認め謝罪し支払うことを了承した。その制裁金は台風の被害者支援のために寄付されるという。

Market Flash

米国経済



最近の世界経済は停滞基調が目立ってきた。その主因は米中貿易戦争であるが、減税などで一人勝ちしていた米国も先行き不透明になり利下げに踏み切っている。

2019年も終わりに近づき2020年を展望する上でも足元の世界経済を押さえておきたい。

<米国経済>

10月29日30日に開催された米会連邦公開市場委員会(FOMC)において0.25の利下げを決定し、政策金利を1.75%~1.50%にした。7月以降3会合連続の利下げである。

パウエル議長は「金融政策はちょうど良い状態にある」と述べて、利下げの打ち止めを示唆した。当面は今の金利で様子見というところであろう。

声明文では、追加利下げを辞さない姿勢を示す「景気拡大を支えるために適切な行動を取る」という文言が削除され、「適切な政策金利パスを評価していく」というニュートラルな文言になった。

また、パウエル議長は、「昨年来の政策変更が、経済に対して有意義なサポートを提供しており、金融政策はちょうど良い状態になる。緩やかな拡大と強い労働市場、インフレ率の持ち直しという見通しに沿った経済の動きが続く限り、現在の政策スタンスは適切である」と繰り返し述べ、金融緩和効果を見極めていく姿勢を示した。

経済実態は、第3四半期の実質GDP成長率は前期比年率+1.9%と、前期(+2.0%)からやや減速した。個人消費+2.9%や政府支出+2.0%が増加、金融緩和の効果もあり住宅投資がおよそ2年ぶりに増加に転じた。一方で、企業部門と外需は引き続き軟調で、設備投資▲3.0%は2期連続の減少、外需も2期連続のマイナスとなった。

個人消費が順調なのは、堅調な雇用環境が好影響を及ぼしている。10月の非農業部門雇用者数は前月比+13万人と、ゼネラルモーターズのストがあつたにもかかわらず堅調に推移した。

* GMのスト

GMと労働組合との間では、医療費の負担の軽減や雇用の確保を巡る労使交渉が決裂。GMの米国のすべての工場では、従業員によるストライキが9月中旬から、およそ1か月続いていた。

GMは10月17日、UAWとの間で、新たな労働協約に関して暫定合意したと発表した。しかし、その後もGMの工場では、ストライキが継続されていた。

しかし、10月26日、UAWが今後4年間の新たな労働協約を承認したと発表した。賃金とボーナス、医療保険、雇用などの面で労使が合意に達し、ストライキが終結している。

9月の鉱工業生産は前月比▲0.4%減少。GMのストで製造業が低迷したほか、鉱業も減少した。

外需は、大豆などの食品、飲料、乗用車、航空機などを中心に前月比▲1.3%の減少。輸入も玩具などの消費財、半導体などの資本財、トラックなど自動車の低迷で▲2.1%と輸出を上回る減少を示した。この結果、貿易赤字は▲706億ドルと前月比減少。国別の赤字額は、中国▲280億ドルは縮小したが、カナダ、メキシコは増加している。トランプの貿易戦争はこれを見る限りにおいては成功していない。

トランプ大統領の政策は結局国内の製造業の力を弱め、対外競争力も削いでいるように思える。



米国企業の7-9月期決算 ～IT部門の回復の兆し～

米国の主要上場500社の7-9月期の純利益は、米国の景気減速の影響により2.7%の減となった。

しかし、明るい動きも見られた。GAFAなどIT大手企業の決算が予想以上に好調であった。特に、クラウド事業を手掛けるアマゾン、マイクロソフト、アルファベット3社の設備投資が合計で189億ドル(約2.1兆円)と過去最高を記録した。

データセンター向け半導体最大手のインテルは、7-9月期のデータセンター向け半導体出荷が予想以上に増加したことを主因に、2019年通期の売上高見通しを過去最高に上方修正した。

IT関連企業の決算では、5G向けのスマートフォンや通信基地局向けの半導体、電子部品需要が想定より早く出ていると指摘されている。また、ゲーム向け半導体の需要回復も示されている。

こうしたことからデータセンター、5G、ゲーム関連を中心に半導体や半導体製造装置といったIT関連需要が回復に転じた可能性が強い。

このように米国経済は相変わらず個人消費に助けられている状態である。トランプ大統領の保護貿易戦略は製造業には決して助けとなっていない。GMなど自動車産業も停滞しているし、設備投資も拡大基調にはなっていない。来年の大統領選に向けてさらなる強硬手段に出る可能性もある。

<中国経済>

11月11日の「独身の日」のアリババのセール取引額は約4兆2000億円と過去最高を記録した。

米中貿易戦争で経済全体は停滞しており、家計消費の動向を示す小売売上高も過去最低水準の推移が続いていたが、セールとなると別のようなようである。

中国経済は、7-9月期の実質GDP成長率は前年比+6.0%と前期の+6.2%から一段と減速した。

その原因となっている米中貿易戦争は、10月10、11日の協議で部分合意が設立し、一旦は安堵感が広がったが、米国の追加引き上げ(25%⇒30%)が先送りされただけであって、ベースの合意はされていない。引き続き今後の協議の行方を見守る必要がある。

中国国内では、減税など諸政策の実行、規制緩和やイノベーション推進、雇用対策などの促進しながら何とか景気を押し上げようと努力している。

一方で、泥沼化しつつある香港や総裁選挙が迫る台湾への対応に迫られている。米国は香港人権法を成立させ、中国による弾圧をけん制しており、中国の対応いかんによっては米中戦争がさらに激しくなる可能性も否定できない。

10月の主要な経済指標を見てみると、10月の工業生産は前年同月比+4.7%と伸び率は9月から1.1ポイント縮小した。主要製品別では、スマートフォンや自動車等に加え、これまで堅調であったセメントや粗鋼等もマイナスとなった。小売売上高の伸び率も同+7.2%と、9月から0.6ポイント減少。1~10月のマンション建設や工場の設備投資等を示す固定資産投資は前年同期比+5.2%となり、伸び率は1~9月から0.2ポイント縮小し、統計の遡れる1996年以降で過去最低となった。固定資産投資の内、インフラ投資の伸び率は1~10月で同+4.2%と1~9月より0.3%縮小。10月の輸出は前年同月比-0.9%、輸入は同-6.4%となり、米中貿易戦争の影響が出ている結果であった。

このように主要な経済指標が景気減速の傾向を示している。



日本経済・英国選挙の行方

<日本経済>

【四半期指標】2019年7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+0.2%(前期比+0.1%)となり、市場コンセンサス(前期比年率+0.8%、前期比+0.2%)を大幅に下回った。GDPの特性上、自動車の駆け込み需要が出荷段階で4-6月期からカウントされ7-9月期の消費の伸びが統計上は抑制されたこと、7-9月期に在庫が減少したことに加えて、輸出が振るわなかったことから、4四半期連続ながら辛うじてのプラス成長となっている。

【企業部門】9月は全体的に弱い動きとなった。輸出数量は前月比▲0.5%と、2ヶ月連続で減少した。地域別に見ると、アジア向けは同+3.7%と増加したものの、**米国向け(同▲2.6%)、EU向け(同▲2.2%)が減少**した。鉱工業生産指数は同+1.7%と2ヶ月ぶりに上昇したが、一部業種が一時的に上振れしたことによるもので、全体の基調は依然強くない。9月の機械受注(船電除く民需)は前月比▲2.9%と3ヶ月連続で減少し、プラス予想であったコンセンサスを下回った。**製造業の減少(同▲5.2%)が主因**であり、非鉄金属が2ヶ月連続で大幅に減少したほか、その他輸送用機械も3ヶ月連続で減少した。一方、非製造業(船電除く)は同+2.6%と3ヶ月ぶりに増加した。前月に減少していた情報サービス業や通信業などが大幅に増加した。均してみると、製造業は2019年初めから横ばいで推移する一方で、非製造業は増加ペースが減速した。

【家計部門】雇用・賃金はまちまちであったが、消費増税前の駆け込み需要を受け消費は大幅に増加した。就業者数は前月差▲5万人と4ヶ月ぶりに減少し、失業率は2.4%(同+0.2%pt)に上昇した。一方、実質賃金(共通事業所ベース、大和総研試算)は前年同月比+0.3%と3ヶ月ぶりに増加に転じた。個人消費は、消費増税前の駆け込み需要が幅広い業種・品目で生じたことを背景に、前月比+5.5%と2ヶ月連続で増加した。

<英国選挙の行方>

12月12日の英国総選挙はブレグジットが争点であり、事実上、2回目の国民投票と目されている。ジョンソン首相の**ベストシナリオは、サッチャー政権以来の大勝利となる、与野党の議席差を21議席以上とする過半数を獲得し、長期政権を確立することである。**

◆2016年の国民投票で残留派が過半数を占めた選挙区では保守党議席減が予想されている。スコットランド保守党がスコットランド国民党に大敗することは確実視されており、イングランド南部でも自由民主党に議席を奪われるであろうことを考慮すると、保守党の過半数獲得には、少なくとも世論調査で7%-10%ポイントのリードを死守する必要がある。

◆ジョンソン首相は、ロンドン市長から国政に転じた2015年選挙時より現在のアクスブリッジ・アンド・サウス・ライスリップ選挙区(西ロンドン)から選出されている。2015年時は1万票差をつけて当選したが、2017年選挙時は5千票差に半減している。**現在も労働党候補が追いつけており、同地域での保守党の支持率がこのペースで下がれば、今回落選の可能性も否定できない。**そうなれば、現職首相の落選という近代政治では前代未聞の屈辱となる。

英国のEU離脱はまだまだ先行き不透明であり、欧州経済の停滞に大きく影を落としている。